



## せいれいこうりん 聖霊降臨ってな~に？



キリスト教の教会が、特に大切にしているお祝いの日が3つあります。

- ① 降誕祭 クリスマス
- ② 復活祭 イースター
- ③ 聖霊降臨祭 ペンテコステ



聖霊降臨祭は**教会の誕生日**とも言われます。教会にとって、とても大きなお祝いの日だということが分かりますね。そして「聖霊」という名前をいただいている私たちの学校にとっても特別なお祝いの日です。毎年、全校生徒がミサに参加します。この日、お捧げる献金は、世界中で誰かの援助を必要としている方々のもとに届けられる心のこもったお金です。今年は 3 月31日の日曜日がイースター(復活祭)で、十字架にかけられて亡くなったイエス・キリストが3日目に復活したことをお祝いしました。イースターから数えて50日目が聖霊降臨の日なので、今年は 5 月19日の日曜日です。「聖霊降臨を迎えるための九日間の祈り」を捧げながら心の準備をします。では、なぜこの日が教会の誕生日になったのか聖書のお話をまとめてみます。

今から 2000 年以上前、イエスがお生まれになったころ、イスラエルの人々はローマ帝国に支配されて苦しい生活をしていました。病気の人、貧しい人、苦しむ人をほうっておくことができなかったイエスは、そのような人々に近づき、手を差し伸べ、癒しと希望を与え続けました。当時の人々にとってそんなイエスの姿は、自分たちを救うためにこの世界にきてくださった神様のように見えたのです。ところが当時の権力者たちや身分の高い人々にとっては、イエスの存在が邪魔でしかたありませんでした。人々がみなイエスの言うことに耳を傾け、自分たちから離れていってしまうのが心配だったからです。そして最終的にはイエスを十字架につけて殺してしまいました。イエスが捕らえられた時、弟子たちは皆、自分たちも同じ目にあうのが怖くて逃げてしまいました。残ってイエスを見守ったのは、わずかな女性の弟子たちだけ。3 日後にマグダラのマリアという女性がよみがえったイエスに出会い、そのことを皆に告げた時、だれも信じませんでした。もし本当だったら自分たちはイエスに叱られると考えたかもしれません。ところが復活された

イエスは、弟子たちを恨んだり、怒ったりするどころか、『あなたたちに平和があるように』と言って、みんなの前に姿を現したのです。弟子たちは戻られたイエスに会って、また希望が湧いてきました。イエスが、自分たちのために国を建て直してくれるに違いないと信じたのです。しかし、復活後 40 日目にイエスは天に昇られ神のもとに帰られます。弟子たちはまた大切な師を失ってしまいました。どうやって、イエスの教えを守り続け、他の人たちにそれを伝えていったら良いのか、自分たちだけでやっていく自信などまったくありませんでした。ただ、イエスは天に昇られる前に、みんなに必要な力が必ず与えられる、と約束してくれました。それから 10 日後、家に集まっていた弟子たちの上に、神の霊が天から降ってきたのです。さあ、どんなふうにも霊は来たのでしょうか？静かに幽霊みたいに？いいえ、そうではなく、びっくりするくらい大きな風の音が天から聞こえて、赤い舌のような形の霊が一人ひとりの上に留まったのです。すると弟子たちは力に満たされて、イエスが話したように神様のことを話し始めました。それも、いろいろな国の言葉で話していたのに理解しあっていたのです。人々の心が通じ合うようになったということを行っているようです。この霊が、神の霊＝聖霊(Holy Spirit)です。それまで弱々しかった弟子たちは、聖霊を受けてすっかり変わります。多くの国にイエスの教えを熱心に伝えていきます。すると、私もイエスの教えを信じますという人が次々と増えて、教会が誕生しました。

“One Heart, Many Faces” ～人を結び、世界を結ぶ～を教育理念として掲げている私たちもかかわる人々との出会いを感謝し、祈りによって結ばれている世界中の人々の幸せを願いながら、この日を迎えましょう！心の暗闇を照らし、私たちの心を新たにしてくれる聖霊によって、ひとつに結ばれる喜びと希望に満ちた学校生活を送ることができるよう・・・

